

ACBAR は市民と支援従事者への最近の攻撃を非難する

Agency Coordinating Body for Afghan Relief & Development (ACBAR)

2018年8月1日

146の国内・国際NGOからなるACBARの加盟団体を代表し、市民や支援従事者への最近の残虐な行為を強く非難する。

- ・ 7月31日（火曜日）、ナンガルハル県ジャララバード市にある政府の事務所に、武装勢力による、複数の攻撃手段を用いた複合攻撃が行われ、初期段階の報告によると、19名が亡くなり、20名以上が負傷した。亡くなった方には、4名のNGO職員と国際機関の職員、負傷された方には3名のNGO職員が含まれている。
- ・ 7月29日（日曜日）、1名のNGO職員が、ファリヤブ県にて人道支援業務に従事している際、殺害された。
- ・ 7月28日（土曜日）、再度、ジャララバード市にて、NGOが運営する助産師研修所に、また別の複合攻撃があり、3名のNGO職員が亡くなり、2名のNGO職員と3名の市民が負傷した。

最初に、加盟団体を代表し、ACBAR運営委員会は、犠牲になった方たち全ての家族や同僚の皆さまに哀悼の意を表し、負傷された方の早期の回復をお祈りする。

ACBARの議長パルワシャ・ハッサンは次のように述べている。「これら全ての職員の方たちは、ただその職務を遂行していただけで、貧しく、助けを必要としているアフガニスタンの人びとを私利私欲なく支援しようとしていた。全ての武装集団は、市民や支援従事者を標的にすることなく、国際人道法を遵守しなければならない。支援を行うことは中立な行為である。」

次に、支援従事者に対するいかなる攻撃、威嚇、暴力、脅迫も、開発ならびに人道支援プログラムの実施の遅れにつながり、あるいは、その中止すらつながりうる。そしてこのことは、アフガニスタンの人びとの安心な暮らしに否定的な影響を及ぼすことになる。

ACBARは政府に、アフガニスタンの全ての市民の保護をよりよく行い、支援従事者とその生命を危険にさらすことなく、政府支配地にて自らの人道的な役割を果たすことができるように、直ちに措置をとることを要請する。

ACBARはまた、ジャララバード市における安全管理の欠陥に関する、迅速で、独立した、透明性のある検証を行うことを要請する。

ACBAR運営委員会

※ 日本国際ボランティアセンター（JVC）仮訳